

経済学の本の輪読を通じて、 質問する力と考える力を鍛えよう。

2018年度は『21世紀の長期停滞論』と『東京五輪後の日本経済』を輪読しました。日本経済を回復させるには、人々の心理や日本で長年にわたり築かれてきた構造の改革が必要で、すぐに解決策が見つかるような問題ではない点がとても難しく思いましたが、問題解決には様々なアプローチがあることを知り、面白く感じました。

輪読を進めていくなかで、章の中で著者の論の立て方を整理し、その中からゼミで議論する質問を考えるという力が身につきました。担当する章をレジメにまとめて資料にする作業では、本の重要な骨格を見抜くことを学びまし

た。経済の専門用語も多く、全て理解するのは難しいのですが、自分なりに資料を探して、自分の理解できる範囲にひきつけて整理する力がつきました。



「輪読」とは？

本の1章ごとに報告担当者を決めます。報告担当者は、数十ページの内容をコンパクトに要約して発表します。報告者以外も、内容に関して疑問に思うところを質問できるよう、しっかり本を読み込めます。出された質問の中からいくつかピックアップして、みんなで議論します。質疑応答を通じて、内容の理解が深まるだけでなく、自分では思いつかなかった意見や論点に触れることもできます。

合同ゼミ合宿でのグループ研究発表会



毎年12月に開催する九州大学経済学部・清水一史ゼミとの合同ゼミ合宿に向け、約3か月かけてグループ研究の発表準備を行います。何の研究をするか、どのような発表用プレゼンを作るかといったことは全て学生が考え、先生のアドバイスを受けながら進めます。研究発表会では他大学の学生から、様々な視点から質問や感想をもらい、とても勉強になります。他大学の同世代の学ぶ姿勢にも刺激を受けます。

経済問題の研究発表を通じて、 まとめる力と対話する力を磨こう。

グループでの発表で大切だと感じたのは、メンバー全員の意思統一です。それぞれの考えがある中で、グループとしての主張を明確にするには、方向性を合わせた上で取り組む必要があります。もちろん研究を進める過程では、各々の意見をぶつけたり疑問を持ちあうことが発表内容を濃くするために必要です。

ここにグループで一つのことを主張する難しさがある反面、主張したいことが発表によって伝えられた時には団結力が生まれ、達成感が得られます。



(2018年度)ゼミメンバー